

ブラジル・アルゼンチン 沖縄県人移民100周年

一世達は海を越え想像を絶する過酷な状況の下で懸命な努力を続け、一つの時代を乗り越えました。
二世達は一世の後姿から多くのことを学び、前進・奮起して次の世代のための足場を固めました。
現在、三・四・五世へと続く世代が活躍の場を大きく広げ一つの歴史を織りなそうとしています。



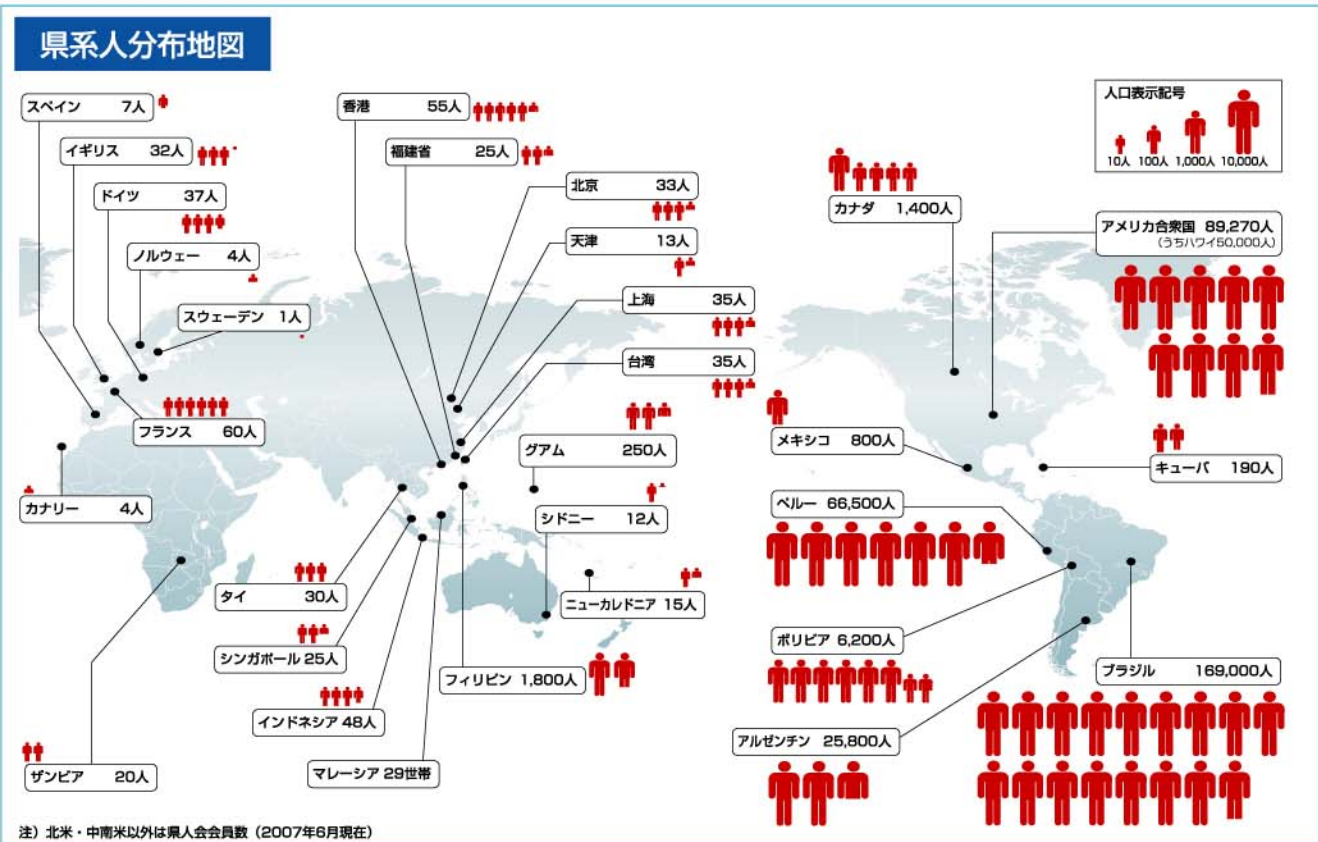
第1回ブラジル移民船
笠戸丸
(JICA横浜海外移住資料館)



赤道祭(船舶が赤道を過ぎるときに船内で行われる祭り)
(ブラジル日本移民資料館)



移住者と見送る人をつなぐテープ
(JICA横浜海外移住資料館)



世界に広がるウチナーンチュ

海を渡ったウチナーンチュ

沖縄の海外移民は、一八九九(明治三十二)年に沖縄を出発した二六人が、一九〇〇(明治三十三年)年にハワイに到着したことから始まりました。その後、南北アメリカ大陸のほかにも東南アジア、南洋群島、台湾、満州(中国東北地方の旧称)へ続々と海を渡りました。

「もーきていくーよー(儲けて来いよ)」の声に送られ到着した土地では、想像を絶する厳しい労働と言語や習慣の違いなど、多くの苦難が立ちはだかりました。

しかし、移民者達は、持ち前のバリエーションとユイマール、イチヤリパチョーデーの精神で筆舌に尽くし難い多くの困難を乗り越え、互いに助け合いながら一致団結して、今日の繁栄の基礎を築きました。

戦前において、移民先からの送金は疲弊している県経済の救済に大きな貢献をしていました。例えば、一九二九(昭和四)年の海外移民からの送金額は、一九八万円に上り、当時の県歳入総額三百萬円の六六パーセントに相当するほどでした。

また、太平洋戦争直後の壊滅的な打撃を被った沖縄を物心両面から支えたのも移民先からの惜しみない暖かい支援でした。ハワイを中心に沖縄救済連盟更正会の結成が本土や南米にも波及し、各移民地に沖縄戦災救済運動が展開されました。

戦後における沖縄の復興と今日の発展はこれらの海外移民の支援なしには考えられません。

県は、海外同胞のこれらの恩義に報いるためにも海外県系人とのネットワークを緊密に保ち、県系人社会の福祉向上や移民地における沖縄文化やアイデンティティの継承に対する支援を行っています。

世界に広がるウチナーンチュ

現在、海外には、四世や五世なども含め、約三十六万人もの県系人がいると言われています。多くの方々が、幅広い分野で活躍し、居住国の発展に寄与するとともに、我が国との国際交流、友好親善の増進に重要な役割を果たしています。

沖縄はかつて、世界の国々をつなぐ架け橋すなわち、「万国津梁」(ばんこくしんりょう)を政治の基本的な方針とした琉球王国の歴史を有しています。県では、約三十六万人もの海外県系人の方々を「現代における万国津梁の民」として、様々な分野において、彼らと連携・協力していくことがますます重要であると考え、世界的なウチナーネットワークづくりのため、世界のウチナーンチュ大会などを開催しています。

ブラジル・サンパウロ市などでは八月二十二日から二十六日にかけて、アルゼンチン・ブエノスアイレス市などでは八月二十九日から九月一日にかけて、パレード、百周年記念式典、国際親善スポーツ大会など様々なイベントが開催されます。

県は当該行事に関係者などで構成する大訪問団を派遣して県系人を激励する予定です。また、ブラジルでの移民百周年記念資料館建設などの記念事業を支援しています。

百周年という記念すべき節目に、沖縄から一人でも多くの県民の皆様が参加されることをブラジル・アルゼンチンのウチナーンチュ達は期待しています。



ブラジル・カーニバルで
沖縄をテーマとしたパレード

この度両国においては、移民百周年を祝うために式典など、多くの記念行事が行われます。

お問い合わせ【県交流推進課】 TEL.098-866-2479 FAX.098-866-2765



沖縄県産業・雇用拡大県民運動実施中!



沖縄県産業・雇用拡大県民運動実施中!